

会報 あがた

松本県ヶ丘高等学校東京同窓会

発行所
松本県ヶ丘高校東京同窓会
〒100 東京都千代田区
大手町2-6-2日本ビル6F
TEL 03-3279-2771 代
発行人 森山修二

卒業30年に思う

高16 松島孝雄

一九九四年四月十六日午前八時過ぎ、約三十年ぶりに母校・県陵の正門に立つ。本館の校舎は新しくなっていたが、内側には旧校舎もあり、さらに奥へ入

ると体育館は当時のまま健在。そして、本日この体育館で創立記念式典が行われることを考えると感無量であった。

記念式典では、県陵の先輩で



記念式典「母校愛のレリー」で、佐藤校長に目録を手渡す一条副実行委員長。横込みはあいさつする豊実行委員長。

もある、佐藤校長先生から県陵創立当時の話などをエピソードを交えて伺った。在校生は改めて校史に接し、

松本県ヶ丘高校東京同窓会の第二十七回総会および懇親会は平成六年七月一日、午後六時より二百名を超す会員や来賓を集めてアルカディア市ヶ

きょう第27回総会

卒業の諸君。花岡進・実行

谷(私学会館)で開催される。今回の当番幹事は高校十六回委員長が中心になって、一年前から準備を進めてきた。

同席したわが同期生も少し懐旧の念に浸ったものだ。同時に、在学中に培った三大精神「質実剛健であれ、大道を闊歩せよ、弱音を吐くな」の訓を再認識せずにはいられなかった。

そして、豊奉邦・実行委員長

の感謝をこめたあいさつの後、「母校愛のレリー」献金目録が

一条功・副実行委員長から佐藤校長先生に手渡され、ここに無事式典を終了した。

記念講演は、同期生のシンガ

ーソングライター堀六平(堀内由光)君がおこなった。彼はかねてから音楽集団「わさびーず」を結成し、松本平を中心にずっと音楽活動が続けてきた。約三十年間にわたって「わさびーず」を支えてきたことの苦勞話を含め、「信濃の人の茶のみばなし」と題した講演と、ミニコンサートであった。

地元、松本平にしっかりと腰を据え骨太の体験を基にした、大変

ユニークな話の内容であった。常に進歩を求め冒険を試みる彼は、レコード会社のオーディションにトライし、アメリカ公演を敢行したことなど野心的な面も披露した。講演の後、在校生代表の感謝の言葉からしても、聴衆に充分感銘を与えたものと思われた。

おわりに豊実行委員長をはじめ

め、五十名の実行委員の一年間の苦勞が実を結び、無事に記念式典が終了したことに感謝の意を捧げたい。

これを機に、今回参加できなかった同期生も、なお一層の結束をはかり、母校県陵の永遠なる発展を望みたい。

高度成長期を終え、これからは文化の時代、ゆとりの時代といわれている。豊かな自然に恵まれた松本平に育ち、県陵で学んだことに誇りを持って、それぞれの分野でなお一層の活躍を期したいものだ。われらが青春の県陵に乾杯!

輸出入・国内販売

鉄鉱石・石炭・鉄鋼原料全般・鉄鋼製品
各種産業機械・石油製品・化学工業薬品

東南貿易株式会社

代表取締役会長 根本静夫

(中学5回卒)

(本社) 東京都千代田区大手町2-6-2 日本ビル6F
TEL (03) 3279-2771-8 〒100
(出張所) 君津・名古屋・広島・八幡・大分
(給油所) 大分
(駐在員事務所) シンガポール・マレーシア・インドネシア

国際ラ・テ制作株式会社

代表取締役 大澤清重

(中学13回卒)

(株) エフエム東京取締役
(財) 蓮根文化会館理事長

〒174 東京都板橋区蓮根2-13-9
電話 03-3966-5481

弁護士

樋口和博

(中学1回卒)

事務所 〒102 東京都千代田区九段北4-1-5
市ヶ谷法曹ビル203号室
☎ 03-3230-4005

自宅 〒157 東京都世田谷区喜多見町5-21-15
☎ 03-3416-2904

母校創立七十周年の記念事業を何にするか、結論を得るのにさほど時間を要しなかった。昭和二十六年、本会が社団法人として主務官庁から認可されたのは、育英事業が最重要事業と認められたからに他ならない。

世の中の流れとともに育英事業も様変わりする。価値観の変動は、育英の対象者を失った。同窓会育英部の資金は凍結状態になって久しかった。

ここで原点に立ち返ろうと決断し、対象を大学進学者にも広げるよう、総会に諮り諒承が得られた。しかし、無利子・償還

本年も松本県ヶ丘高校東京同窓会の、第二十七回定時総会を迎えることになりました。ことは、高校第十六回の諸氏が幹事役となり、準備を進めていた

親会が開催されるものと期待しております。
さて昨年の夏、在京の高校同窓会で構成する同窓連すなわち長野県高等学校同窓会連合会では、中信地区の高校同窓会が当番となり、松本市で「ふるさと交流同窓会」を開催しました。九月十一日に開かれた会合にはわが東京同窓会からも、役員は

猶与期間・公的育英会に劣らぬ貸与金額・対象者の数などを考慮に入れると問題点が多い。現在、育英部が在校生のために留保している金額では、事業を継続することは到底できない。



育英募金に思う

本同窓会長 大野喜佐雄(中1)

結局、三千万円を募金目標として、会員の母校愛に訴えざるを得なかった。同窓会報やメールを通してのお願い、役員企業の訪問が開始され、募金活動は本格化した。

紆余曲折はあったが、目標とする募金額を集めることができはじめ多数の会員が参加し、交流の実を挙げました。

また、ふるさと信州をともしる県人の集まり、長野県人会連合会にも多くの人材を送りこみ、県陵人の心意気を遺憾なく発揮しております。



県陵人の心意気

東京同窓会長 大澤清重(中13)

ところで、わが東京同窓会は首都圏域において、四千名を越す県陵人が活躍しております。これら会員の組織化を図り、相互の連携を高め、会の組織を強めていきたいと考えます。同時に会を恒常的に運営するため

た。この「絶不況」の中で、立派に達成されたことを、ここに報告できる喜びを会員の皆様と分か合いたい。

反面、常任理事会で厳しい意見が出されたことも事実である。

すなわち、募金に応じしてくれた会員が十数パーセントに過ぎなかった現実を指摘する声が多かったことである。

二割の人達が八割の人びとを支えるという「二八の原則」かの財政基盤の確立に意を注いでおります。

ご承知の通り、松本の本部同窓会では従来の年会費制に加え終身会費制を導入し、成果をあげています。この制度は、納入

された会費の支部還元助成も実施されており、支部活動強化の資になっていきます。私は、本部に對しまして、助成金の増額をお願いしているところです。

しかし、東京同窓会としても

ら見ても、この数値は確かに低い。大切なことを訴え得なかった私の不徳に思い至った次第。誰でも組織を無視する自由はある。しかし、本来の自由とは純粋な愛と共棲したものである。母校愛、後輩への愛は変化の中で団結力となり、淘汰性の中で、省かれた者を抱きこもうとする。同窓会活動の熱源は、この一点に凝縮する。

この事をご理解いただき、基金のさらなる上乗せを期待する。募金の窓口は当分閉鎖しないので事務局に問合せられたい。(026333210666)

自らの努力による財源づくりも必要であり、今後の検討課題として注力してまいります。

本部同窓会が来年の平成七年をメドに、新訂の会員名簿を発行するそうです。これを機に、東京同窓会の名簿を充実させ組織の拡充強化と、さらなる発展を期したいと願っています。

本部同窓会はもとより、各種関係団体とのパイプを太くし、会員のための会運営を心掛けてまいります。

東京同窓会発展のため、役員はもとより会員の皆様のご協力とご支援をお願いいたします。

弁護士

石川元也

(中学2回卒)

石川元也法律事務所

【事務所】〒530 大阪市北区西天満6-9-13西天満ウエストビル
phone 06-362-2701 fax 06-362-2702
【自宅】〒663 宝塚市御殿山2-31-51-101
phone 0797-85-0813

祝 第27回 東京同窓会

長野県松本県ヶ丘高等学校東京同窓会

幹事長 森山修二

(高校1回卒)

医療法人 聖徳会 西軽井沢病院 相談役

株式会社 オギタツ

山岸光臣法律事務所

弁護士

山岸光臣

(高校3回卒)

〒101 東京都千代田区神田佐久間町1-14

第2東ビル8F 801号室

電話 03-3255-2700

03-3255-2709

(東)京同窓会の皆様の熱いご支援をいただき第十二代松本市長に就任し、はや二年が過ぎました。この間、市民のための開かれた市政、市民一人ひとりの幸せを願って日々の政務に邁進してまいりました。市民の声を身近に聴き市政に反映させるために、市民相談室を一階に設置して毎朝実施しております。

市政の窓から

(二)の二年間、大きな事業から小さな事業まで様々なアイデアを出して市政に取り組んでまいりました。一般企業の経営マインドを参考に、柔軟な発想で二十一世紀を見据えた市政の推進を図っております。すなわち、効率的な行政政を進めるための行政改革を手はじめに、高齢者や身体障害者への福祉事業、道路網の重点整備、農業振興事業、新焼却プラントの建設による環境整備、商工業の振興、教育文化の向上など市民生活に密着したものです。

(三)月には、その折り返し点を迎えまして、市内の各界各層の代表の皆様が発起人となり「有賀市政を激励する市民の会」を

盛大に開催してくださいました。当日のアンケートでも「松本市政は変わった、明るくなった」との声が九割を超える評価をいただきました。私に対する期待の大きさに、改めて身の引き締まる思いでございました。

さて、自然環境に恵まれた松本、教育文化の香り高い松本。わがまち松本は市民だけではなく、在京の皆様とのふるさともあります。

(昨)年、国宝松本城四〇〇年ま

誇れるふるさと松本に

松本市長 有賀 正(高2)

(本部同窓会副会長)

つりを開催しました。お陰様で同窓生の皆様のお力もいただき大成功に終わることができました。この四〇〇年まつりには、国内外はじめ海外からも大勢の皆さんが松本を訪れました。私は、松本の良さを十分に満喫していただけたと自負しております。地方分権、国際化が問われるなか、その受け皿づくりを進めるとともに、いつまでも心に残る故郷としての個性あるまちづくりを進めることも、大切な

ことです。全国の人びと、世界の人びとから「松本ですか。ええ知っていますよ。いい街ですな」と言われるように、誰もが誇れる「ふるさと松本」を創りたいと考えております。

(松)本から世界に向けて発信したサイトウ・キネン・フェスティバル。そして、県営松本空港のジェット化整備も進み、この七月二十六日に運航開始いたします。これまでの大阪便に加え、札幌・福岡便の就航も先日、認



可されました。さらに主要都市から海外へ、と夢が広がります。(市)民が幸せを実感できる松本そして誰もが誇れる、ふるさと松本を創るためには職員の協力も欠かせません。いま市役所には約二千人の職員がおりますがこのうち二百三十九人が県陵の同窓生で、私を支え頑張ってくれております。

(組)織の筆頭部署で市の将来計画を考える林丘弘(高6)企画部長、全市水洗化をめざす矢崎源市(高5)下水道部長、用地取得を受け持つ中村忠(高5)用地対策室長、空港ジェット化開港に向けて指揮をとる塩原汎(高7)空港対策本部長、快適な都市の整備を進める降旗哲生(高8)都市開発部長、サイトウ・キネン・フェスティバル担当の赤羽敏一郎(高12)国際音楽祭推進室長、そして私が働きやすいように心を配る前田謙(高6)市長公室長といった七人の部長が、重要なポストでその役割を果たしてくれています。また十三人の課長も、それぞれ支えてくれております。

さらに市と両輪になる市議会にも、同窓の議員さんが六人おり、ご指導をいただいております。亀井正(中13)木下文武(中13)松田弘(中18)早川史郎(高8)高野拓雄(高10)高山芳美(高21)の皆さんです。

(私)は、県陵同窓生の職員そして市役所の全職員とともに、夢あるふるさと松本の都市づくりに取り組んでまいります。皆様のご提言を、いただくとともに、ご協力をお願い申し上げます。

参議院議員・下條進一郎秘書

本郷 一彦

(高校17回卒)

〒390 松本市開智3-3-12
TEL 0263-33-0867
FAX 0263-34-4998

松本市長

有賀 正

(高校2回卒)

〒390 松本市丸の内3-7
TEL 0263-34-3000(代)

URBAN SPACE ■一級建築士
DESIGNING ROOM 大蔵 治

(高校17回卒)

松本県ヶ丘高校PTA会長

■建築設計監理 大蔵建築設計事務所
松本市宮瀨1丁目1-18 ■TEL 0263-32-1960(代)

スクールカラーは何色

沿革外史で校史に彩りを

学校長 佐藤彦雄(高5)

今年四月十六日に七十一回創立記念日の式典を行いました。その式典の意義を思う時、長い歴史の積み重ねの中で、次第に忘れ去られ風化していく語り継がねばならない校史が、沢山あることを痛感しています。先輩の皆様がご健在のうちに収集し

真偽を正し、記録に留め置かなくてはと、やや焦りを感じています。例えば……一、小松先生碑を西田幾多郎博士が揮毫された経緯は？ 一、小松先生が揮毫されたという「備乱」の手拭を誰か保存していないか？ 一、中村・二木両君が美ヶ原で遭難した場所は？

一、県陵のスクールカラーは本当は何色か？ 一、アルペン章の正確な配色は？ 一、中学の中の字を高校の高にした時の原図はどこに？ ……等々、学校沿革史に記載されない史実を集成し語り継ぐ必要を感じています。沿革外史——正史の裏に隠されたそれは挿話でもいい、いろいろお寄せ頂きたいもので

す。校史に彩りが添えられます。創立記念日の式辞の中で私は美ヶ原遭難について話しました。「……小松武平先生が本校初代校長として赴任されたのは、大正十二年四十七歳の時。そして七年後の昭和四年九月二十八日、先生にとつても本校にとつても、痛ましい悲しむべき事故が起こった。美ヶ原遠足の帰途、本隊と別れて下山した中村・二木両君が、夕刻から降り出した雨と霧のために道に迷い消息を絶った。捜索の間、小松先生は事務室の椅子に座し、終日終夜受話器を手にしつつ、捜索の報告を聴き指揮を執った。かかる状態が三日三晩に及び、遂に十月一日、小松郡武石村権太窪広川原で、抱き合ったまま息絶えている二人の遺骸が発見された。生徒を死に至らしめた自貴の念と、最愛の者を失った父兄の心痛への思いやりが、絶大な打撃を小松先生の精神に与え、突然腰部に激痛が走り病床の人となつてしまわれた。事故後一年、昭和五年九月五日、両君の一周忌を目前にして中村・二木両君を追うように五十四歳で不帰の客となった。小松先生は死期が近づいた昏睡状態の中で「おお、いま行くよ。待っている、悪かったなあ」と言い続けておられた……と。今年も「母校愛のリレー」ありがたく頂きました。第十六回卒業生を代表し「わさびーず21」を主宰する堀六平さんから「信濃の人とお茶のみ話」と題して、私共の忘れかけている人間の心を再び蘇生してくれる、素晴らしいソング&トークに一同心を揺さぶられました。

一 英語科がいよいよスタートいたしました。大きな期待と夢を満載した船出ではありますが、順風満帆とは行かぬでしょう。荒天や時化は覚悟の上です。が、乗組員一同、航海の無事と成果を目指して全力を挙げてまいります。ご指導とご協力をお願いいたします。

昭和十五年以来半世紀、県陵生の汗の結晶でもあった同窓林が、本年度をもって契約が切れます。五月二十六日、最後の同窓林作業を行いました。



女生徒の姿が目立つ、県陵祭のキャンプファイヤー(昨年)。背景の山は、中村・二木両君が遭難した美ヶ原。『臼井写真館提供』



なつてしまわれた。事故後一年、昭和五年九月五日、両君の一周忌を目前にして中村・二木両君を追うように五十四歳で不帰の客となった。小松先生は死期が近づいた昏睡状態の中で「おお、いま行くよ。待っている、悪かったなあ」と言い続けておられた……と。今年も「母校愛のリレー」ありがたく頂きました。第十六回卒業生を代表し「わさびーず21」を主宰する堀六平さんから「信濃の人とお茶のみ話」と題して、私共の忘れかけている人間の心を再び蘇生してくれる、素晴らしいソング&トークに一同心を揺さぶられました。

昭和十五年以来半世紀、県陵生の汗の結晶でもあった同窓林が、本年度をもって契約が切れます。五月二十六日、最後の同窓林作業を行いました。

株式会社 タクケン
代表取締役 **澤井 建夫**
(高校16回卒)
〒390 長野県松本市南原1丁目10-2 塚本ビル2F
TEL 0263-28-1001(代) FAX 0263-28-1003
フリーダイヤル 0120-223313
展示場・まつもと木舎 TEL 0263-36-0456

出光興産特約販売店
信光石油株式会社
取締役社長 **ともくに 奉邦**
(高校16回卒)
前・松本県ヶ丘高校 PTA 会長
〒390 松本市深志2丁目2番9号
電話 (0263) 35-2525(代) FAX (0263) 36-7448
営業所 島内・塩尻・大町・白馬

国産材
総合木材業
株式会社 丸英
取締役社長 **斎田 英文**
(高校16回卒)
本社 〒390 長野県松本市新橋6-15
☎0263(32)4195(代表)
FAX 0263(36)7433
工場 ☎0263(35)5661 (JAS 認定工場)

会報「あがた」の係の方から『東京同窓会へ一言』とのタイトルで出稿を要請されました。これにとらわれずに書かせていただきます。

まず初めに、常々母校と本会にお寄せいただく物心両面におたる、ご理解ご協力に對しまして、厚く御礼申し上げます。

母校も本年が創立七十一年、人間でいえば古稀を超えたことになります。東京同窓会も産声をあげてから四十七年、第二十七回の総会を迎えられ誠におめでとございます。この間、敗戦後の混乱と社会経済の変動の中にあつて、時には手弁当で在京同窓生の力となるために、献身的なご努力をなされた歴代の会長さん・役員・会員の皆様方

本会にご苦勞様でした。今日、東京同窓会が、長野県の数ある在京同窓会の中にあつて、他の模範となり先導的な役割を果たされておりますこと、本部同窓会といたしまして大いに喜びといたすところであります。

建学以来七十一年、開校の理想と先賢の教訓を受け継ぎ本校を興立った卒業生は、この三月をもって二万二千九名に達しました。旧制中学二千九百、併設

中学四九六、新制高校一万六千八三三となつております。

この間、県陸卒業生は三大遺訓を肝に銘じ、全国各地で輝かしい足跡を刻んでおられますことは頼もしい限りです。殊に、首都圏域には卒業生の四分の一ほどが在住し、活躍されていると推定されます。従つて東京同窓会の皆様ののご活躍に期待すること大であります。

東京同窓会も遂年面目を一新し、総会開催を隔年より毎年開催に切り替えたり、新卒会員を招待して新旧会員の交流親睦を促し、また懇親会の運営は母校愛のリレーの当該年次生が当るといふ、新しい形態による組織の拡大充実に由る活性化が進み、これが参集者の増加にも繋がつたものと考えられます。

例年と違つて松本本会の総会が二週間程早く行われますが、こちらも今年から卒業二十五年度の年次生が懇親会の運営を担当することになり、例年になら

活気と親睦の輪が広まること、いまから期待しています。次に本会の近況を二、三申し述べまして、御礼やらお願いに代えたいと思います。

(一)、昨年は母校創立七十周年という区切りの年でしたが、平成元年に創立六十五周年並びに第二グラウンド竣工・校舎落成記念式典を行った関係で、記念行事は行いませんでした。しかし、記念の意味をこめて、懸案の大学生を対象とする奨学資金

の募集に踏み切りました。不況の折とて心配いたしましたのが、後輩を思ふ先輩諸兄姉の熱意により、無事目標を達成しました。昨年三名、本年四名の計七名に貸与しております。

昭和二十六年十月、全国に先がけて発足し、同窓会のメインでもある育英事業が、開店休業の状態から、いよいよ新しい形で軌道に乗ることになりました。心から感謝御礼申し上げます。

(二)、母校では、いよいよ英語科がスタートいたしました。従来の普通科とは、おたがいが良い意味で刺激しあい、母校の発展に繋がることを期待します。

(三)、会費納入につきましてはその都度お願い申しあげ、心よくご協力をいただき感謝いたします。昨年は奨学基金の募金があつた上に不況と重なり、予想を大分下まわりました。

郵便料金値上げに伴う会報発行等の通信費の大巾増大、母校への学習環境整備助成、支部活動強化に伴う助成等、今年も積極的に諸事業を推進してまいりたいと思ひます。今後とも会費納入へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

(四)、来年二月発行を目前に、会員録の発行に取り組んでおります。五年毎に新訂版を発行いたします。

(五)、今年もまた第十六回卒業の方々による母校愛リレーが、四月十六日の創立記念日に合せて行われました。詳細は同窓会報十二号をご覧ください。

最後に、第二十七回東京同窓会総会のご盛会と、会員皆様方の弥栄、母校の限らない発展を心から念願して、ごあいさつといたします。

科がスタートいたしました。従来の普通科とは、おたがいが良い意味で刺激しあい、母校の発展に繋がることを期待します。

松本⇄東京は車の両輪

第27回総会によせて

本部同窓会副会長 赤羽富男(中14)

の募集に踏み切りました。不況の折とて心配いたしましたのが、後輩を思ふ先輩諸兄姉の熱意により、無事目標を達成しました。昨年三名、本年四名の計七名に貸与しております。

昭和二十六年十月、全国に先がけて発足し、同窓会のメインでもある育英事業が、開店休業の状態から、いよいよ新しい形で軌道に乗ることになりました。心から感謝御礼申し上げます。

(二)、母校では、いよいよ英語科がスタートいたしました。従来の普通科とは、おたがいが良い意味で刺激しあい、母校の発展に繋がることを期待します。

(三)、会費納入につきましてはその都度お願い申しあげ、心よくご協力をいただき感謝いたします。昨年は奨学基金の募金があつた上に不況と重なり、予想を大分下まわりました。

(四)、来年二月発行を目前に、会員録の発行に取り組んでおります。五年毎に新訂版を発行いたします。

(五)、今年もまた第十六回卒業の方々による母校愛リレーが、四月十六日の創立記念日に合せて行われました。詳細は同窓会報十二号をご覧ください。

株式会社 大塚酒店

代表取締役 大塚敏正 (高校16回卒)

〒390 松本市中央2-8-7
TEL 0263(32)1669

ブリタニカグループ E B INTERNATIONAL JAPAN, INC.

社長秘書

轟 研 (高校16回卒)

〒151 東京都新宿区西新宿1-21-1 明金ビル
TEL 03-3345-4001
FAX 03-3344-6255

名門の味

東京近鉄百貨店
大丸ビーコック
銀座歌舞伎座

趣味のおつけもの **水城**

代表取締役 **水城啓一郎** (高校16回卒)

〒390 松本市大手4-12-16
TEL 0263-33-2310

校歌作詞者・高野辰之を思う

関西支部長 石川元也(中2)



私たち県陵一期会(中21回・高1回合同)は、このほど松本第二中学校入学五十周年記念文集『若き我等』激動の時代に生きて』を刊行した。われらが青春群像を記録した三百八十四ページにおよぶ記念碑である。

年、東京の長野県人会連合会誌「信州の東京」に、『高野辰之と校歌』と題して研究の成果を連載し、好評を博したことは記憶に新しい。

「若き我等」が、わが校歌の副題であることは、同窓の皆さんなら誰でも承知してしよう。また、桐原俊文さんである。学兄は特に戦前の昭和にかけて作詞した、全国百余におよぶ校歌・団体歌について調べている斯道の権威だ。過

桐原氏によると、高野辰之作詞になる校歌でサブタイトルの付いたものは、唯一無二であり百余の中でも、最高傑作のひとつに数えられる校歌であるという。校歌制定の際、作詞者は資料を取りよせたり現地を訪れては、その地の歴史・人物・気候風土等について取材する。高野辰之は松本第二中学校の校歌作詞に当り、王ガ頭の頂きに立って松本平を俯瞰し、その強烈な印象を基に感性豊かなわが校歌を作ったのでは……という。まさに御説の通りであろう。

和初年代にかけてであり、国語国文学という学界であったこともあろう。昭和十年、還暦を迎えるや一切の官職を辞して、郷里に近い野沢温泉村の山荘に隠栖。戦後間もない昭和二十二年静かに息を引き取ったという時代背景もあろう。信州人らしく『野人』として生涯を貫き、学閥人脈を作らなかつたことも考えられる。

高野辰之が、大正のはじめから桐原俊文さんである。学兄は特に戦前の昭和にかけて作詞した、全国百余におよぶ校歌・団体歌について調べている斯道の権威だ。過

明治九年、現在の下水内郡豊田村に生まれる。長野師範を出て田舎教師となるも、勉学の志もだし難く上京。国文学の泰斗、上田萬年博士に師事。文部省の教科書編纂や小学文部省唱歌の作詞に当る。

いまも世に歌い継がれる唱歌「故郷」「春が来た」「春の小川」「朧月夜」「紅葉」の作詞者でもあるのだ。

高野辰之の校歌

若き我等

昭和五年作

一

高野 十字のふもとに

信濃乃 直中

あゝの地 小身を

若き我等は 體も強し。

若き我等は 心も強し。

昭和四年五月

西五位文部博士

高野辰之

だが、この高野辰之の生涯やその業績となると、あまり知られていないようだ。文学博士・高野辰之の活躍した時代が、大正から昭和

国語国文学者として前人未踏の研究論文「日本歌謡史」で、東京帝大より文学博士号を授与される。昭和三年、昭和天皇の御前でご進講の榮に浴す。東京音楽学校の教授等を歴任する。

ス様な人物の手になる、わが校歌は素晴らしいの一語に尽きる。全国に誇れるものだ。一度、甲子園球場でその校歌を声高らかに歌い上げたきものである。この希いは私ひとりのものであろうか。

カットは高野辰之直筆の校歌の歌詞とサイン。(桐原俊文氏所蔵の『野人集』より「七一」)。

株式会社 県建築設計事務所

代表取締役 櫻井俊夫 (高校16回卒)

〒390 長野県松本市埋橋1-1-6
TEL 0263-36-5537(代表)
FAX 0263-36-9262

土木・建設・骨材プラント
産業用諸機械販売・レンタル・リース

フジヤ機工株式会社
フジヤリース

代表取締役 花岡 朗 (高校4回卒)

本社 長野県上伊那郡南箕輪村神子柴7408
〒399-45 電話 (0265) 72-7283(代)
FAX (0265) 73-6261

諏訪営業所 長野県諏訪市神宮寺567-4
〒392 電話 (0266) 58-7611(代)
FAX (0266) 58-8891

百瀬会計事務所

税理士 百瀬 征夫 (高校16回卒)

〒390 松本市織ヶ崎1-6-33
TEL 0263-33-4108

随想
小さい出来ごと
東京同窓会
名誉会長 **樋口和博** (中)



長いこと霞が関で働き、日比谷公園を庭先のように眺めて過ごしてきた私は、この頃でも裁判所で、紛争解決の仕事を終えて帰るときには、必ずこの愛する公園を通り抜けて、地下鉄の内幸町駅に出て帰宅することにしている。

公園の中には四季折々の素晴らしい俳句の素材があるし、ピチピチした元気な子供達が無心に跳ね回り、若い男女が何の遠慮もなく抱き合っているし、そしてその隣にはホームレスと思われる人達が虚ろな目をしてベンチに座している。また時には、長生きをし過ぎて人生に疲れ、これからの老いを思いやっているかのように悄然としてベンチに座っている年配者の姿を見ることがある。ここのベンチは

日本のど真ん中の公園に描かれている人生の縮図のようにも思われる。

私はいつもこの人生絵巻図を見ながら、暫くの間ベンチに腰掛けて、俳句をひねり出したり、「元氣を出さない」と言わんばかりに勢よく噴き出す噴水や、心をなごませてくれる花壇に目を向けていることが多い。

つい先頃のこと、例の如く公園のベンチに腰掛けていたら、すぐ横のベンチに五、六十歳とと思われる身繕いの良い男が煙草をふかしながら花壇を眺めている様子であった。暫くすると、吸っていた煙草をポイと捨てて足で踏みじり、空っぽになった煙草の空箱を丸めてベンチの下に投げ捨てた。

すると、近くのどこからかチヨロチヨロと飛び出してきた五歳位の男の子が、その男のそばへ飛んで行き「おじさん、ごみ箱はあそこにあるよ」と言っ、何の屈託もなくごみ箱の方に指を向けた。するとその男は「ああ、すまん！すまん！ありがと

う」と言っ、先程吸い捨てた煙草と空箱を拾い上げて、ごみ箱の方へ持って行った。その子は、そのまま飛んだり跳ねたりしながら母親のいる噴水の方に走り去った。

私はこの二人の何気ない会話と出来ごとを見ていて、ほのぼのとしたものを覚えた。私たちの身辺から次々と環境が壊され汚染されていくこの頃、この幼い子供のあどけない言葉によって、日比谷公園の中の小さな環境が汚染から護られたことに、大きな喜びを感じた。と同時に、かつて観た「猿の惑星」という映画のラストシーンで主人公が荒廃化した地球の大地を叩いて「この地球をこんなにしたのは誰だ！」と絶叫する衝撃的なシーンを思い出した。

この頃のように、子供も大人もひたすら豊かさの中に溺れ、偉大なる自然に対する敬虔な慮れを忘れて、子孫に残すべき地球上の資源を使い果たし、破壊し汚染していったのでは、これから先何年か後には、我々の子孫をして「誰がこの地球をこんなに破壊し、汚染したのだ！」と絶叫させることになるのではないだろうか。——只今から直ちに、子供といわず大人といわずすべての人達が身近なところから、この大事な地球を汚染や破壊から護る心を養わなければならないことを痛感したものである。

私は、この公園の幼児と大人の双方による小さな行動が、やがて地球全体を汚染や破壊から護ることにつながることを期待しながらベンチを離れた。

立ち上がる時、足元に心なく捨ててあった弁当の空き箱を拾い上げて、ごみ箱に入れ内幸町の方に向かって歩き出した。

アルペンゴルフ会 高8が連覇

東京同窓会の会員親睦事業の一環として、年二回実施されている、ゴルフ部会の親善ゴルフ会の結果は次の通り。

▼第30回記念アルペン会
93年11月9日(火) 厚木国際CC
二十八名参加『成績』優勝・高8 矢口弘司朗(41-39 NET 70.4) 準優勝・高4 大月実(42-40 NET 71.2)

▼第31回アルペン会
94年4月12日(火) 久邇CC
二十八名参加『成績』優勝・高8 平林邦俊(43-47 NET 74.4) 準優勝・高7 花岡俊(46-43 NET 74.6)

なお、今回は十一月の子定。

京浜機械加工株式会社

代表取締役 **花岡 進**
(高校16回卒)

〒226 横浜市緑区川町922-22
TEL (045)471-3775
FAX (045)471-3776

祈る!! 盛会

東京サブロク会一同

タイガー印スポーツ用品

(株)タイガー

代表取締役 **奥原輝男**
(高校15回卒)

〒113 東京都文京区弥生2-5-3
TEL 03-3818-8251
FAX 03-3818-8252

同期の桜



特集

「高校三年生」の頃

30年ぶりの母校を訪ねて

高16 木藤宗子

松本城は、満開の桜に囲まれていた。北アルプスの残雪を背景にしたこの風景は、本当に美しいと思った。三十年振りに県陵の校門をくぐるというだけで、胸がワクワクする。松本駅からタクシーに乗った私は、街の姿が変ったことに驚いた。あの頃は、まだ市電が走っていた。そういういえば、あの県陵街道はどうなっているのかな。運転手さんも同年輩とか、昔話に花を咲かせながら、母校に着いた。

木造校舎も柔道場も新しくなっていたが、校門と体育館は昔のままだった。昭和三十九年に卒業した私達は、この新築され

の友人と、チケットやレコードを売ったり、コンサートの裏方にまわって手伝ったこともあった。NHKのオーディションに合格した時は、自分のことのように喜び合った。失敗しても良いから、やりたいことを今やってみよう。グループ活動を続けていく難しさの中で、メンバーと話したことである。

フォークソングの全盛時代でもありローカル色の濃い「わさびず」の歌が、全国的なネットに乗るのには、大変難しかった。やがて解散し、グループはメンバーが新しくなった。「わさびず」も三十年、今も歩き続けている。久しぶりに六平さんの歌を聴き、彼の話を聞いて、「青春だったんだなあ」と、今さらのように気がついた。在校

生たちは、どんな気持ちで、この話を聞いているだろう。あつという間の三十年。個々においてそれぞれに、いろんなことがあつた年月。弱音を吐きたい時も、何とか乗り越えてきた年月の重みを、六平さんの話を聞きながら感じていた。

松本館での同期会には、懐しい担任の先生方も出席され、会が盛り上った。黒髪と別れを告

げた男性や、孫がいるという人もいて皆を驚かせた。働き盛りのエネルギーは、会話の中からも伺えて、昔話の中にも、まだ夢を感じる事ができた。同期の女子は、クラスに二人か三人であった。自由な校風の中で、県陵の女子は、より個性を発揮し、自己主張していたように思う。十畳間ほどの女子の部屋に

たむろして、おしゃべりに時間を費やしたことも懐しい。

性格は今でも変っていないようである。卒業式以来の再会にもかかわらず、話はずむ。瞬時にして、十八歳に戻っている。授業をサポートして映画を見に行つたこと。体育を休んでパンを食べていた話。強歩大会の思い出。好きな女の子がいたことなど。

時効になった高校時代の悪事を、笑いの中に納めた。今は、それぞれに、それぞれの場所で、自分の役割を生きている。校歌と応援歌で、この会を閉じた。

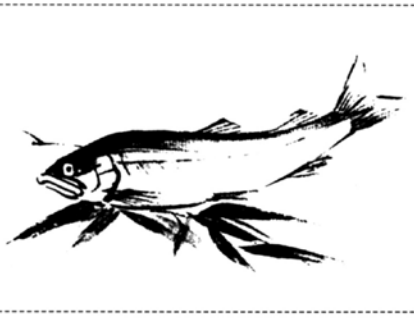
二次会は駅の近くだった。隣にいる人の名前も思い出せないまま、話ははずんでいく。大糸線で通学した仲間の顔も、よく見れば詰め襟と一緒に浮かんでくる。ワイワイ、ガヤガヤしているうちにカラオケが始り、や

はり「高校三年生」の大合唱となった。舟木一夫のこの歌は、私達が高校三年生の時に大ヒットしたものである。我々のテーマソングであろうか。「赤い夕陽が校舎を染めて/ニレの木蔭に弾む声/ああ高校三年生/ぼくら離れ離れになろうとも/クラス仲間はいつまでも」。

昭和三十九年は、東京オリンピックを十月に控えており、日本の経済は高度経済成長時代に入ろうとしていた。終戦およそ二十年。私達の同期は、大半が昭和二十年生れである。戦後の日本と一緒に歩き出し、成長してきた。来年は終戦五十年、五十歳を迎える。人生五十年と言われた時代から、今は高齢化社会。同期に、キンさんとギンさんが沢山あらわれるかもしれない。こうして三十年振りに再会できた喜びが、さらに今後の新しいエネルギーになったことと思う。草間さんの指揮の下、県陵の応援歌を歌って解散となった。旧友たちと別れてから私は、県ヶ丘高校に行つて良かったなあと思った。東京に戻つてからも、数日間は同窓会の余韻が残り、「わさびず」のテープをか

けたりしていた。

何年前、「県陵三九会」の元締である花岡進君が、首都圏在住の同期生有志の集まりの席で「いづれ東京同窓会の幹事の年がやってくる。横の連絡を密にしていこうや」と参加者に発破を掛けたことがあった。その時は「まだまだ先のこと」と高を括っていたが何とその年がきてしまった。しかも今年は、われ



われが母校を巣立って三十年目だという。光陰矢の如しを実感せざるを得ない。

大正デモクラシーの遺産のようなあの本館も今はもうない。新校舎は未だ拝観の機会を得ないが、写真で見るとかぎり何かお嬢様学校のような印象を受けたのは小生の年のせい。そう言え、わが県陵も在校生の半数

はお嬢様になったとか。質実剛健にして弱音を吐かず、大道を闊歩するお嬢様をイメージするのは中々難しいが、まあそれも時代の趨勢というところで良しとしよう。聞くところによれば、松本には銀河マークのお坊っちゃん君もいるらしいから。ところで小生が三年生の時、応援歌「覇権の剣」の一節「基礎定めて三十余年」を「四十余年」に改めた記憶がある。あの応援歌はその後「五十余年」、

「^{アガタロード}県陵街道」は健在だろうか。振り返れば思い出は尽きなく、懐かしい友の顔が次々と脳裏をかすめる。我が同期三百七十余名の内には、残念ながら非常に若くして既に鬼籍に入った者も何名かいる。しかしながら小生の知る狭い範囲だけでも、何名かは極めて著名な活躍をしている者もいる。この機会にその活躍の一端を紹介してみたい。博士号を取得している者が二

友を選ばば

高16 上條章栄

「六十余年」と改めていつているんだらうか。いっそ「幾十余年」にすればあと二十数年はそのまま使えろと思うがどうだろうか。懐かしついでにもう一つ。母校の近くに、通称「ばんじゅう屋」という店があった。うどん一杯二十円、天麩羅一個五円、魚のフライ一個十円等々、五十円もあれば結構腹しらえができる店だったが、今はどうなっているんだらう。また、朝な夕なに慣れ親しんだ通学道路

名。一人は日大工学部で教鞭をとる堀田健治君(工学博士)。堀田君とは小学校に入る前からのつき合いであり、まさに竹馬の友。もう一人は神戸製鋼に勤務する白沢秀則君(工学博士)。白沢君とは、大学時代プライベートな山岳同好会を作ったことがあり、何回か行動を共にした山仲間でもある。一方、故郷松本で名声を博している著名人もいる。信州大学での生体肝移植の主治医として

活躍した石曾根新八君である。記者会見の雄姿は、メディアを通じてここ東京でも何回か見ることができたが、ちょうどその頃松本で石曾根君と二人で飲む機会に恵まれた。飲み屋の女将が他の客に「ほら、あの方信大の石曾根先生ですよ」とひそひそやっているのを聞き、そういう友を持ったことを内心誇らしく思ったものだ。故郷の著名人をもう一人紹介しよう。言わずと知れた「わさびーず」のリーダー堀六平こと堀内由光君である。我等十六回生を代表して「母校愛のリリース」では記念講演をお願いした。堀内君とはもう二十年以上会っていないが確か二年ほど前、所用で長野を訪れた際、列車の中で聞くとはなしに聞いていた信越放送から彼の声が流れてきてびっくり。気取りのない素朴な人柄に魅せられてか、根強いファンも多いと聞く。初代「わさびーず」の面々は皆元気だろうか。こうして振り返ると、我が青春は県陵とともにあったことをしみじみと感じる。懐かしきかな我が県陵、懐かしきかな我が友、永久に幸あれ。

株式会社 東急ストア
 中山 とうきゅう
 取締役 相馬 秀彦
 店長 (高校16回卒)
 〒226 神奈川県横浜市中山町304番地1
 電話 045(935)0109番
 FAX 045(935)3315番

音楽企画・制作・「わさびーず」21 音楽事務所
 株式会社 白馬文化クリエーション
 代表取締役 堀 六平
 (堀内由光：高校16回卒)
 〒399-93
 OFFICE 長野県北安曇郡白馬村大字北城12867-222
 TEL.0261-72-6700 内線33
 0261-72-2828(直通・FAX兼用)
 安曇野分室 長野県安曇郡穂高町北穂高832-2
 TEL.0263-82-7139 (堀内由光)

埼玉司法書士会
 司法書士 山口 秀幸
 (高校16回卒)
 事務所 〒362 埼玉県上尾市本町5丁目7番11号
 電話 (048)774-4533番
 FAX (048)774-4525番

母校の教壇に立って

高16 田中寛美

『年年歳歳花相似たり、歳歳年
年人同じからず』と詠んだのは、
唐の詩人・劉廷芝だったでしょ
うか……。白雪を戴く峻烈な北
アルプスや緑なす美ヶ原高原の
連山は今も昔と変わることはあ
りません。しかし、七十余年の
歳月を刻んだ母校県陵は少しず
つではありますが、確実に変化
してきております。

私が縁あって母校にお世話に
なり、教壇に立つようになって
今年で九年目を迎えます。この
僅か九年という短い間にも、さ
まざまな変化がありました。私
共が学んだあのコンクリートの
肌むき出しの、しかし、風格あ
る本館校舎は既になく、当時の
面影を残すものと言えは、体育

館とプールのみとなつてしま
いました。
また後輩の生徒諸君につい
ても、学校全体で男女比ほぼ半々
となり、更に今年度から英語科
が新設された関係で、一年生は
女子が男子を若干上回るとい
う現象が出てきております。こ
のような状況は、県陵の歴史始
まって以来のことであり、各クラ
ス数名の女子がいるだけであつ
た三十年前と比べ、隔世の感が
あります。去る四月十六日、「母
校愛のレレー」に募集された高
十六回卒の諸氏も同様の感慨を
持たれたことと思ひます。
さて「母校の教壇に立って
お前は何かを考えながら教鞭を執
っているのか」という声が大向こ

県陵九年間の想い出

元社会科 樋口昇一

昭和三十六年四月、前任校の
木曾東高校から転動して県陵へ
参りました。まず最初の印象は
学校内がきたなく、男くさいこ
とでした。木曾東は女子高で、

うから聞こえてきそうです。正
面切つて、そのように問われる
と答へに窮しますが、「県ヶ丘
高校五十年史」の中で、「校庭に
は花を作るよりは棟梁の材た
る大木を育てる方がよい」と小
松先生は言われております。そ
の遺訓に従つたものかどうか私
には分かりませんが、御存じの
ように本校の前庭には百尺享々
たるヒマラヤ杉の巨木が数本、
天をも突き破る勢いでそそり立
つております。

母校の教壇に立っている私に
は、この小松先生の言葉が『生
徒達が将来、社会的に有為な人
材となるべく大きく逞しく成長
して欲しい』という意味に響い
てきます。時代は変わつても、
時代を超えて不易なるもの、教
育の大道はあるはずです。現実
の「進学校」という課題に込
つつも、その根底に先程の「棟
梁の材」たるべき人材をどうし
たら育てられるかの観点を堅持
していきたいと思つております。
後輩の生徒諸君は皆天賦の才
能に恵まれ、また学べる幸せを
も手にしてしております。大地に
深々と根を張つたあの前庭のヒ
マラヤ杉のように、骨太で真つ
直ぐで風格のある若者に育つて
欲しいと念じつつ、教壇に立っ
ているような次第です。

この原稿を書いている私の机
の隣には、五年前に卒業させた
生徒が教育実習生として座つて
おります。四月に実施された三
十周年記念行事の折りに列席を
頂いた恩師の山田先生が社会科
また私が社会科、そして隣に座
っている教え子がまたまた社会
科、何か宿縁のようなものを感じ、
同時に母校で教鞭を執れる
喜びをも噛み締めております。
(平成六年六月十日・記)

キッコーマンレストラン株式会社
「コルザ」六本木、銀座、渋谷

取締役 中村 健一
総務部長 (旧姓・巾/高校16回卒)

本社 〒106 東京都港区東麻布1-4-2期生ビル9階
電話 03-3583-9611(代)
FAX 03-3586-3923

住友海上火災保険 代理店
ナショナルライフ保険

エムディーエフ
MDF インシュアランス

藤川 マチ
(高校16回卒)

〒231
横浜市中区豆町158の1 住友海上火災保険横浜中央支店
TEL.045(201)4231 FAX.045(671)9536
グレイス山手町番地206
TEL.045(623)5639 ナショナル・ファイル保険横浜支社
FAX.045(625)3485 TEL.045(664)4310 FAX.045(664)4307

AMG アート・ミュージアム・ギンザ

マネージャー 中藤 勝
AMG学芸員 (高校16回卒)

〒104 東京都中央区銀座7-4-12ぎょうせいビル1階
TEL・FAX 03(3571)2285/会場直通03(3572)7430
高島屋ギャラリー 045-311-1251



東京同窓会からも沢会長はじめ多数が参加した「ふるさと交流同窓会」(セルモ二丁の様子)(ページ参照)

野球部の半年

着任早々の想い出で忘れられないことの一つは、何分若い先生が少なく、一緒に赴任した中村(現西沢)勝男先生と二人で校長室へ呼ばれ、野球部顧問、といっても監督の西沢ユタンボ先生(失礼!)が病氣回復までの「おてこ」をやらされたことです。大学時代に「東都大学軟式野球リーグ」を毎日新聞社の後援で結成し、二リーグほどレ

ギュラーで出場したことを校長が知っていたことが災のもととなつてしまいました。前年秋の北信越大会では西沢先生のもと関沢治重・茅野禎男両先生のコンビで優勝した野球部でしたが、新チームは戦力ダウンの上、私如き軟式しか知らない顧問の登場もあつて夏の大会へ向けての練習試合は負けてばかりいました。ところがそこへ強力な助っ人が来てくれました。現役の大学選手が母校へ教育実習にきて、その一環として練習をみてくれることになりました。その結果チーム力はめきめき上昇し、夏の大会ではその年甲子園へ出場した伊那北高に1対0で負けましたが、当時まだ開催されていた県下四地区の優秀校による選抜大会では、宿敵松商に敗れたが決勝戦まで進出したのが忘れられません。この助っ人こそ、現在長野県高野連の理事長として活躍している奈良井宏美先生(現美須ヶ丘)ですし、完封負けした伊那北の投手が後阪急(現オリックス)にスカウトされた柳沢君でした。

野球部は一身上の都合で退きました。実はその年の六月末、一ヶ月半も早く未熟児の双子が生まれてしまい、一時女房の実家木曾から通勤するという事情もあつて九月一杯でやめさせてもらいました。わずか半年でしたが「県陵精神」を味わつた忘れ難い半年間でした。

フウケンII風土研究部IIのつきあい

3階の東隅が社会科職員室、それを仕切つた小部屋が風研部室。落書き、土器などがラクタクと汗臭い柔道着、先輩が残していった教科書・プリント・ノートなどがゴタゴタと散乱している。タバコ・酒の匂いこそしなかつたが、あのすえたような汗と埃にまみれた部屋こそが、「青春」そのものだったような気がします。

私は大学で考古学を学んできましたので、二年目から風研の顧問となり、十年目に新設された松本筑摩高校へ転任してからも、いろいろと学校外から協力していきました。三月の年度休み、五月の連休、それにメインは夏休みの合宿しながらの発掘調査。今考えても楽しい生徒諸君との交流でした。当時の県陵

祭の展示コンクールでは常に地学・生物などと優勝を競つたことも忘れられません。

二年前、私が定年退職した時、この風研の卒業生が中心となつてお祝いをしてくれました。参会者約百名のうち二十数名が風研OBでした。数えてみたら現在日本各地で考古学面で活躍している風研OBは三十数名となります。しかし、考古学でメン

の食えない時代、私は一人として考古学をやれと勧めませんでした。それなのにこんな沢山の教え子が私と同じ道を現在も歩み、もう私などその最後尾にヨタヨタして引っぱつてもらっている状態ですが、教師冥利に尽きるありがたいことと感謝しています。

社会科教師失格のこと

私が県陵在職時は政局が「安保騒動」の高揚期。この歴史の激動を自分の身体で実感したいと国会デモにも参加しました。授業そつちのけで政治論議もしました。当時の県陵卒業生の何人かが例の「大学紛争」で活躍したものです。現在その当時の卒業生が各界の中堅として日本発展の原動力となっています。その彼等に社会科の教師として何を教えられたのかと思うと、

若輩だったからなどという言い訳では許してもらえない反省ばかりが脳裡を去来します。現在の日本や世界の動向をみていると一層その感を深くして、社会科教師として失格だったなあーと痛感します(と書いて許されるものではないのですが)。

私事で恐縮ですが、愚息二人はこの親をみて国語科の高校教師となりました。「反面教師」という言葉がよくわかつた次第です。書きたい事はまだまだありますが紙数が尽きました。良き職場の先輩が同僚、素晴らしい個性豊かな生徒諸君に恵まれた「至福」の県陵九年間でした。お礼申し上げます。

『筆者は現在、(助)長野県埋蔵文化財センター参事』

株式会社 **ケイヨウ商事**

代表取締役社長 **金 沢 英 文**
(高校16回卒)

〒110 東京都台東区東上野2-21-2増田ビル2F
TEL (03) 3839-1900
FAX (03) 3839-2276

ひたすらの人生と 無名の手作り活動 堀六平



現代の大衆音楽の世界は色々な形で世の中に登場していますが大きく分けると、若者達が憧れているファッション的音楽芸能の世界と、地味な社会貢献を伴った社会的音楽芸能という世界とに分けられます。そのどちらにも人々に喜びや歓喜を与え特に情操教育の面で、大きな潤いを社会に提供しているといえます。色々なアーティスト達の生の演奏や音に触れて、若者達は心に生きた振動を捕え人生の栄養にしていく、更にまた文化弱者と言われる老人や子供にはボランティア(私は社会的自主活動と言っていますが)活動を通じてその生の音楽に触れてもらい、かつての若き血を呼び起こし後進の指導に、子供達は明日への夢と憧れにつなげていく、そんな心の活動が堀六平とわさびーずの音楽活動でした。

堀六平は今年、ひたすら手作り音楽活動を開始して以来25年になります。いつも貧しく、よくもこの様に長きにわたって活動できたものと感徳無量です。前述した社会的音楽芸能に属する六平とわさびーずの音楽家仲間達の音楽文化活動は決して大きな利益を生むことはありません。しかし毎朝流れるテレビのワイドショーの芸能の話題にすらならない「わさ

びーず」の無名の音楽家たちですが全国の学校や公的機関、各種団体などから特にここ数年大変な量の引合があり貢献できることを嬉しく思うのです。我等の25年という長い活動が人生と世の中に何時も真正面であったことを考えるとやはり素晴らしい活動であったのです。事に当たっては腹をくくり地味にあくまで地味に生きてきた今日を考えるとあの「県陵の三指針」のもとで受けた薫陶がそのまま生きていたことに気付き、改めて誇りと感謝の念がまた沸いてくるのです。【写真はライブコンサート会場でメンバーと(左端)。榎白馬文化クリエーション提供】

- ▼本名 堀内由光(ほりうち よしみつ)
長野県南安曇郡穂高町出身
松本県ヶ丘高校第16回(昭和39年)卒業
- ▼現在 シンガーソングライター・ラジオパーソナリティ
(ソニーミュージックエンターテイメント・ソニーレコード所属)
わさびーず音楽集団主宰・榎白馬文化クリエーション取締役

21世紀を見つめて新しい生活づくり
街づくりに挑戦しております。

M&K

東京サンロク会幹事

都市空間のバイオニア **エム・ケー株式会社**

東京都日野市高幡15-2 TEL 0425(94)1771

代表取締役 **小林 勁** (高13回)